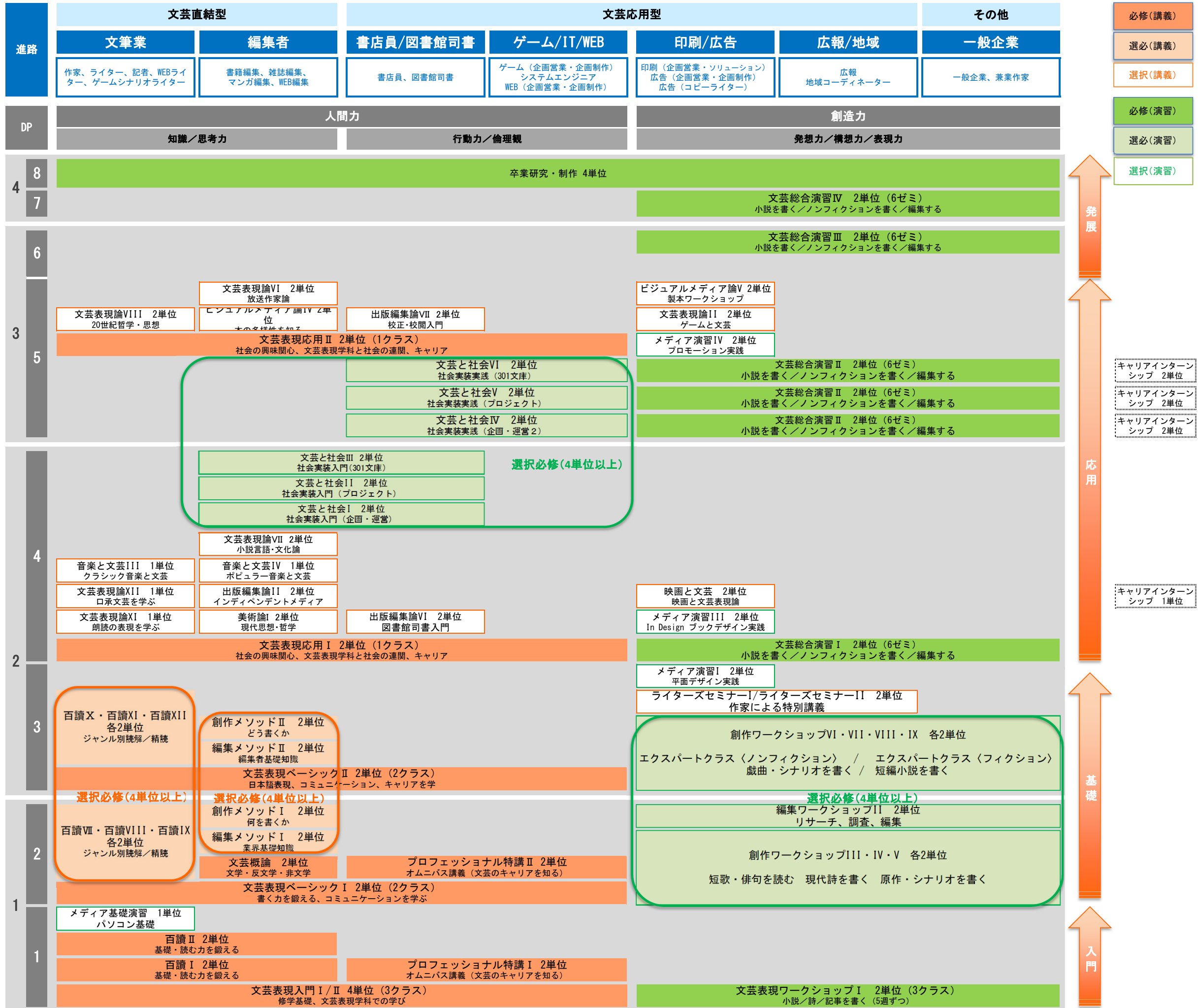


文芸表現学科カリキュラムツリー 2020年度入学生用



【1-c】カリキュラムマップ (文芸表現学科)

芸術学部 ディプロマ・ポリシー		
人間力 自立したひとりの人間として 生きるための基盤の力	知識	人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる
	思考力	正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる
	行動力	自らを律しながら、設定した課題に粘り強く継続的に取り組むことができる
	倫理観	自らの良心に従い、社会のために芸術・デザインの力を活かすことができる
創造力 芸術の力を 社会のために活かす	発想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめることができる
	構想力	概念・イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる
	表現力	テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる

科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	◎ DPを達成するために特に重要 ○ DPを達成するために重要 △ DPを達成するために望ましい								
						知識	思考力	行動力	倫理観	発想力	構想力	表現力		
文芸表現入門I (A/B/C)	必修	1年以上	講義	2	前期	◎					△			
文芸表現入門II (A/B/C)	必修	1年以上	講義	2	前期	◎					△			
文芸表現ベーシックI (A/B)	必修	1年以上	講義	2	後期		△				◎			
文芸表現ベーシックII (A/B)	必修	2年以上	講義	2	前期		△				◎			
文芸表現応用I	必修	2年以上	講義	2	後期		△				◎			
文芸表現応用II	必修	3年以上	講義	2	前期		△				◎			
文芸概論	必修	1年以上	講義	2	後期	△	◎							
百讀I	必修	1年以上	講義	2	前期	◎	◎							
百讀II	必修	1年以上	講義	2	前期	◎	△							
百讀VII	選択必修	1年以上	講義	2	後期	◎	△							
百讀VIII	選択必修	1年以上	講義	2	後期	◎	△							

テーマ	授業概要	到達目標
文芸表現の基礎を学ぶ1	大学での基本的な学び方を身につけることを通して、文芸表現学科での基礎的な学びへの導入と定着をはかり、学科の専門性につながる日本語表現への専門的な知識と意識を涵養する。また、「読む」「書く」「聞く」「話す」のことばの四要素に重点を置きつつ、とりわけ「読む」「書く」ことの、大学における初期教育に力を注ぐ。その際、各回の内容に応じた課題出題と添削を通して、学生個々の力の丁寧な涵養につとめる	中学・高校までとは基本的に異なる、自立した個人としての大学での学び方を修得する。また、文芸表現学科におけることばの学びにおける、「読む」「書く」基礎的な能力を修得し、今後の学科での学びに適応できる力をつける
文芸表現の基礎を学ぶ2	大学での基本的な学び方を身につけることを通して、文芸表現学科での基礎的な学びへの導入と定着をはかり、学科の専門性につながる日本語表現への専門的な知識と意識を涵養する。また、「読む」「書く」「聞く」「話す」のことばの四要素に重点を置きつつ、とりわけ「読む」「書く」ことの、大学における初期教育に力を注ぐ。その際、各回の内容に応じた課題出題と添削を通して、学生個々の力の丁寧な涵養につとめる	中学・高校までとは基本的に異なる、自立した個人としての大学での学び方を修得する。また、文芸表現学科におけることばの学びにおける、「読む」「書く」基礎的な能力を修得し、今後の学科での学びに適応できる力をつける
文芸表現について発展的に学ぶ	ことばのコミュニケーション四要素のうち、「書く」力の涵養に加えて「聞く」「話す」力の涵養にもつとめ、学科の専門性につながる日本語表現への専門的知識を身につけさせる。また、社会におけるキャリアについて初歩的な理解を深め、ひいては自らの将来的なキャリアについて真摯に考える姿勢と自己意識、社会性を身につける	他者とのコミュニケーションにおける「聞く」「話す」実地の力と、日本語表現の専門的知識・能力とをバランスよく身につけつつ、社会におけるキャリアについて初歩的な理解を深め、自らの将来的なキャリアを展望できるようになる。また、2年次の夏にインターンシップに出ることを目標に、社会の現場でより役立つ実践的な日本語を運用できるようになる
社会の中で生きる言葉を探す1	ここまでの「表現基礎シリーズ」の履修内容を踏まえつつ、日本語表現、ことばのコミュニケーション、およびキャリアについて、一步踏み込んで多面的な理解を深め、自身の将来に役立てられるよう、ことばの専門的な実力をつけていく。また、今後のより本格的なキャリア学習に備え、今一度、自己と他者についての理解を深めさせ、各種のグループワークを通じた基礎的な社会性の涵養につとめる	実社会の現場で役立つ実践的な日本語の力を身につけつつ、2年夏にインターンシップに出ることを目的に、ごく基礎的な社会的ルール・各種のリテラシーを理解し、自分のものとする
社会の中で生きる言葉を探す2	ことばの力を社会で活かすために、社会の諸問題への興味・関心を深め、自らが社会に出ていくのに必要な準備をする。また、文芸表現にかかわる多様な職業人について、リサーチやインタビュー取材などを通して、具体的な将来ビジョンを獲得する。	3年次夏にインターンシップに出るための準備として、実社会に役立つことばの力や、社会に出るための基礎的なマナーを身につける。また、文芸表現にかかわる多様なキャリアについて知り、文芸の学びをもって社会の荒波を切り開いていく人間力を身につける。
社会の中で生きる言葉を獲得する	文芸表現学科で得た知と能力を活かし、自らの特性や志向、活動記録を自己分析しつつ、社会で生きていく実践力を身につける。また、3年夏のインターンシップの準備として、多様な「文芸的」キャリアを研究して、エントリーシートの演習に励む。	これまで養ってきた言葉の力を武器にして、自らが興味・関心のあるキャリアとの接点を見つけ、未来の社会を生き抜く力を身につける。また、3年夏から始まるインターンシップに備えて、文芸表現の学びから直結する将来のビジョンを、より明確に確立する。
文芸とその周辺	「文芸」とひとくちでいうけれど、そのなかにはさまざまなジャンルが存在している。また最近では、文芸作品型の表現ジャンルの作品に翻案される(いわゆるメディアミックス)こともめざらしくない。本講義では「文芸」を大きな地図のなかに位置づけることを試みる。	文芸と総称されている領域の内部、およびその周辺を理解し、自身が書きたいと思う文芸作品の一隅を理解することができる。
百讀〈入門篇〉1	ジャンル、作家にとらわれず幅広い文芸作品を読み、それについて語ることをつうじて、文芸の世界を学んでいくために必要となる基礎を形成する。	文芸作品を読み、理解し、それについて語るための読解力、批評眼を養うとともに、自分自身が文芸の世界で活躍するために必要となる、文章表現力を伸ばす。
百讀〈入門篇〉2	ジャンル、作家にとらわれず幅広い文芸作品を読み、それについて語ることをつうじて、文芸の世界を学んでいくために必要となる基礎を形成する。	文芸作品を読み、理解し、それについて語るための読解力、批評眼を養うとともに、自分自身が文芸の世界で活躍するために必要となる、文章表現力を伸ばす。
百讀〈応用篇:横断的に読む1〉	百讀I-IIを踏まえ、対象を物語テキストに限定せず、フィクション、ノンフィクション作品を横断的に読み、読み解き理解する力を伸ばし、「読む」ことの意義を再確認する。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的なかつ分析的に論じることができるようになる。
百讀〈応用篇:横断的に読む2〉	百讀I-IIを踏まえ、対象を物語テキストに限定せず、フィクション、ノンフィクション作品を横断的に読み、読み解き理解する力を伸ばし、「文芸」というジャンルの多様な可能性を理解する。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的なかつ分析的に論じることができるようになる。

百讀IX	選択必修	1年以上	講義	2	後期	◎	△							百讀<応用編:読みとコンテキスト>	百讀I・IIを踏まえ、さまざまな文芸作品を多様なコンテキストの中で読解し、読み解き理解する力を伸ばすとともに、コンテキストの中で産みだされる意味の多様性を理解する。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的かつ分析的に論じることができるようになる。
百讀X	選択必修	2年以上	講義	2	前期	◎	△							百讀<応用編:長篇精読>	1年次百讀を踏まえ、対象をおもに長篇小説に限定し、その精読をつうじて、対象となるテキストについて理解を深めると同時に、読み解き理解する力をさらに伸ばす。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的かつ分析的に論じることができるようになる。
百讀XI	選択必修	2年以上	講義	2	前期	◎	△							百讀<応用編:現代小説>5	1年次百讀を踏まえ、対象をおもに現代小説に限定し、その精読をつうじて、対象となるテキストについて理解を深めると同時に、読み解き理解する力をさらに伸ばす。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的かつ分析的に論じることができるようになる。
百讀XII	選択必修	2年以上	講義	2	前期	◎	△							百讀<応用編:短篇精読>6	1年次百讀を踏まえ、対象をおもに短篇小説に限定し、その精読をつうじて、対象となるテキストについて理解を深めると同時に、読み解き理解する力をさらに伸ばす。	対象作品の精読をつうじて、さまざまなテキストに対する読解力を身につける。また、テキストについて具体的かつ分析的に論じることができるようになる。
創作メソッドI	選択必修	1年以上	講義	2	後期	△	◎							創作メソッド(世界を作る)	広義の物語を作るための具体的な技術・技法の総体を、その仕組みや仕掛け・力学等について、基礎から体系的に身につけていく。また、古今東西の優れた作品群や作品理論をひもといて、書き手を目指す者にとって最重要課題である「何を書く(べき)か」ということを、ともに考えていく。	授業を通じて学んださまざまな知見、技術知をもって、受講者各々がこれまでもっていた創作への意欲や問題意識を一段高め、ゆくゆくは真に書きたい物語を実際に形にすることが出来るようになる。
創作メソッドII	選択必修	2年以上	講義	2	前期	△	◎							創作メソッド(世界を語る)	物語が小説として書かれるさい、それは通常語り手による「語り」として読者に提示される。本講義では、物語を語り手の声に託して「語る」うえで欠かせないテクニックを既存の作品から学び、かつワークショップ等に実践をつうじて体得する。	授業を通じてさまざまな「語り」の技法を学び、それを実作に活かすことができるようになる。
編集メソッドI	選択必修	1年以上	講義	2	後期	△	◎							編集メソッド(エディターシップとは何か)	マスメディアの様々な分野に及ぶ編集概念と実務、その創造性について、多様な事例を通じて文化的価値から俯瞰し、エディターシップの基本を理解する。	エディターシップの可能性、職業としての編集者について理解し、自分自身の執筆、編集、キャリア展望に取り入れることができるようになる。
編集メソッドII	選択必修	2年以上	講義	2	前期	△	◎							編集メソッド(出版という企て)	編集メソッドIで、エディターシップの概念と実務を理解した上で、出版編集論、出版文化論に焦点化し、本をめぐる職業(編集者・執筆者等)を目指すために必要不可欠な基礎を身につける。	本をめぐる業界の歴史と現在を理解し、職業としての編集者に必要な倫理、法、社会性、実務について理解し、自分自身のキャリア展望、志望動機に取り入れることができるようになる。
プロフェッショナル特講I	必修	1年以上	講義	2	前期	△				◎				文芸リレートーク1	文芸表現学科の授業を担当する教員による、それぞれの専門領域、またそこでの自身のキャリアについての講義をとおして、文芸表現の可能性について、また職業としての文芸について理解を深める。	文芸表現の可能性、職業としての文芸の可能性を理解し、4年間にわたる文芸表現学科での学修についてみずからの目標をイメージする。
プロフェッショナル特講II	必修	1年以上	講義	2	後期	△				◎				文芸リレートーク2	文芸表現学科の授業を担当する教員による、それぞれの専門領域、またそこでの自身のキャリアについての講義をとおして、文芸表現の可能性について、また職業としての文芸について理解を深める。	文芸表現の可能性、職業としての文芸の可能性を理解し、4年間にわたる文芸表現学科での学修についてみずからの目標をイメージする。
美術論I	選択	2年以上	講義	2	後期	◎	△							現代思想・哲学	多様な様相を見せる映像メディアとしての写真の歴史を辿るとともに、それを考察するための理論的な枠組みについて考察する。	写真に関する基礎的な知識を身につけるとともに、写真について考えるための知識や思考法について理解を深める。
映画と文芸	選択	2年	講義	2	後期	△				◎				映画・文芸表現論	実作ワークショップを通して小説と映画という物語表現のジャンルを行き来し、小説の直面する限界と新たな可能性を探る。	物語表現の持つ普遍性と可能性を十分に理解し、その成果を、自らが取り組む表現に生かすことができるようになる。
音楽と文芸III	選択	2年	講義	1	後期	◎	△							音楽と文芸1	古今の小説や文芸映画に現われたクラシック音楽を聴き、あるいは映像を観ながら、音楽と文芸の関係について考察する。	クラシック音楽がいかに文芸に浸透しているかを知るとともに、より深く文芸や映画との関係を認識できるようになる。
音楽と文芸IV	選択	2年	講義	1	後期	◎	△							音楽と文芸2	ロック・ミュージックを中心としたポピュラー音楽を聴き、あるいは映像を観ながら、音楽と文芸が相互に影響し合ってきた流れを考察する。	ポピュラー音楽がいかに文芸作品とも密接な関係を持っているかを理解できるようになる。
文芸表現論II	選択	3年以上	講義	2	前期					◎				ゲームと文芸	今日では小説、映画、マンガ、アニメなどと並んで物語性が大きな意味をもつひとつのジャンルとなったゲームについて、その物語性を考える。	ゲームのもつ物語性を理解し、文芸作品との連続性を理解する。またそれを自身のキャリアにつなげる可能性を実感する。
文芸表現論VI	選択	3年以上	講義	2	前期		◎							放送作家論	日本でラジオ放送が始まったのが1925年、テレビ放送が始まったのが1953年。以来、多様な放送コンテンツが制作され、そこには放送作家・脚本家と呼ばれる「放送業界の文人」が大きく貢献してきた。そんな放送文化について、文芸的な視点から学ぶ。	テレビ・ラジオといった放送業界の歴史や現況を学び、そこにも放送作家や脚本家といった文芸の役割があることを理解することで、より広い視野と柔軟な思考を身につける。
文芸表現論VII	選択	2年以上	講義	2	後期		◎							小説言語・文化論	おもに英語圏で書かれた小説作品を題材に、それを生みだした文化的背景、歴史、言語と作品との関係を考える。	作品を文化的なコンテキストのなかで理解し、また作品とそれが書かれている言語との関係を理解する。
文芸表現論VIII	選択	3年以上	講義	2	前期		◎							アート・文学を語るための20世紀哲学・思想	ソシュールの言語学に始まるおもにヨーロッパ20世紀の思想・哲学をたどり、これらがアート・文学とどのような関係にあったかを考える。	20世紀の思想・哲学を理解し、これらを駆使してアート・文学について語れるようになること。
文芸表現論XI	選択	2年以上	講義	1	後期		◎							朗読	音声によって文芸作品が媒介される「朗読」という表現形式の実践をとおして、文芸作品がもつ潜在的な可能性を考察する。	朗読の実践をとおして、文芸作品の音声的な表現の可能性を理解する。
文芸表現論XII	選択	2年以上	講義	1	後期		◎							口承文芸	落語、講談といった「しゃべり」による文芸を実体験し、文芸作品がもつ「読む」以外の可能性を考える。	音声によって媒介される文芸作品を知り、それが文字によって媒介される文芸作品といかに違うのかを理解する。
出版編集論II	選択	2年以上	講義	2	後期	◎								インディペンデントメディア 歴史と現在	21世紀型の数々の発信を学びつつ、さまざまな媒体を効果的に使いこなす術を身につける。実際の制作も試みる。	自身の表現を効果的に伝えていくための知識と術を身につけ、実際に、個々人で紙やオンデマンドの冊子制作と発信を行う。

出版編集論VI	選択	2年以上	講義	2	後期			◎					図書館司書入門	図書館とはどのような場であって、図書館司書とはどのような仕事なのか。図書館の歴史・社会的意義から説きおこし、知のナビゲーターとしての図書館司書の役割を考える。	図書館のしくみ・意義を理解し、図書館司書を目指すにあたって必要な基礎知識を身につける。
出版編集論VII	選択	3年以上	講義	2	前期			◎					校正・校閲入門	出版のプロセスにおいて校正・校閲が果たしている役割を理解し、その実践を演習をとおして学ぶ。	校正・校閲の意義を理解し、今後本格的に校正者・校閲者を目指すために必要な知識を身につける。
ビジュアルメディア論IV	選択	3年以上	講義	2	前期	◎							「本」の多様性	「本」とは、文字ばかりが並んでいるものとはかぎらない。本講義では、写真集、絵本など、多様な書籍のありようを考え、書籍の可能性を考える。	ことばと密接にかかわるさまざまなメディアを知ることで、書籍という表現形式の可能性を広げ、自身の制作につなげる。
ビジュアルメディア論V	選択	3年以上	講義	2	前期				◎				製本ワークショップ	現在流通している書籍の構造を知り、学生作品展に展示する本の製本を試みる。	自分の書いた作品(文章)がどのようなプロセスを経て本というかたちになるのか、実際に製本し体感することで、造本についての知識を深め、簡単な製本ができる。
ライターのセミナーI	選択	2年以上	講義	2	夏期集中				◎	◎			作家による特別講義	ライティングの第一線で活躍する講師の講義を踏まえて、ライティングの実作および合評を行う。	ライティングの最前線で起こっていることを学び、それを活かして自分の表現の幅を広げ、深さを増す。
ライターのセミナーII	選択	2年以上	講義	2	夏期集中				◎	◎			作家による特別講義	創作の第一線で活躍する講師の講義を踏まえて、創作の実作および合評を行う。	創作の最前線で起こっていることを学び、それを活かして自分の表現の幅を広げ、深さを増す。
文芸表現ワークショップI (A/B/C)	必修	1年	演習	2	前期				◎				小説・詩・アーティクル	文芸執筆の導入編として、小説、詩、アーティクル(記事)の3ジャンルにわたって実際の執筆を体験し、読者に伝わる文章とはどんなものであるかを考える。	小説、詩、アーティクルといったジャンル上のニーズを踏まえ、読者を意識した文章を書く意義を理解する。
創作ワークショップIII	選択必修	1年以上	演習	2	後期				○	◎			小説・シナリオを書く	フィクション(物語)の文芸創作として、小説と脚本という異なる執筆形式をどちらも体験・演習し、自らの創作者としての方向性や作風の萌芽のようなものをつかむ。	小説と脚本をどちらも学習・体験することで、両者のちがいがだけでなく、根底にある共通点をも深く理解し、文芸の幅広い選択肢を視野に入れることができる。
創作ワークショップIV	選択必修	1年以上	演習	2	後期				○	◎			現代詩を書く	行数やキーワード等のしぼりを課したうえで、毎週、詩作品を書いて合評を行い、自分のことばを探り当てていく。	自分自身の詩のことばに自覚をもって表現を追求し、自作をプレゼンテーションしつつ他者の作品に的確な批評をできるようになる。
創作ワークショップV	選択必修	1年以上	演習	2	後期				○	◎			短歌・俳句を詠む	普段の何気ない生活の中で発見した物事を文章化し、一首の短歌を添えるなど、エッセイと短歌を組み合わせた鑑賞と創作を行い、合評する。	自分自身の短歌のことばに自覚をもって表現を追求し、自作をプレゼンテーションしつつ他者の作品に的確な批評をできるようになる。
創作ワークショップVI	選択必修	2年以上	演習	2	前期				○	◎			短編小説を書く	エンターテインメント性の高い各ジャンルのフィクションについて広く学び、実作を通して小説創作の基礎を実践的に学ぶ。	エンターテインメント小説の来歴と現在について理解を深め、企画立案から作品完成に至る実作プロセスを実践的に身につける。
創作ワークショップVII	選択必修	2年以上	演習	2	前期				○	◎			戯曲・シナリオを書く	映画やドラマなど、映像作品の設計図であるシナリオについて幅広く学び、発想(アイデア)を生み出して形にするまでの一連のプロセスを身につける。	映像表現の基礎知識を学んで、短編シナリオを完成させ、映像的な発想力を身につける。
創作ワークショップVIII	選択必修	2年以上	演習	2	前期				○	◎			エキスパートクラス<フィクション>	「自分自身のために楽しんで書く」段階から大きく進んで、自作を広く社会で作品を発表するために必要な力を、総合的に身につける。	作品執筆～完成にいたる一連のプロセスについてより深い認識を持ち、社会に発表できるレベルの作品を〆切まで必ず完成させるプロの姿勢を身につける。
創作ワークショップIX	選択必修	2年以上	演習	2	前期				○	◎			エキスパートクラス<ノンフィクション>	「自分自身のために楽しんで書く」段階から大きく進んで、自作を広く社会で作品を発表するために必要な力を、総合的に身につける。	作品執筆～完成にいたる一連のプロセスについてより深い認識を持ち、社会に発表できるレベルの作品を〆切まで必ず完成させるプロの姿勢を身につける。
編集ワークショップII	選択必修	1年以上	演習	2	後期				○	◎			編集ワークショップ	学内外にかかわるテーマを提示し、それにふさわしいアウトプットを考察し、かたちにする作業をつじ、「編集」というこころを実践的に学ぶ。	提示されたテーマを柔軟に解釈し、他者と協力しながら発展的に実現する力を養う。
文芸と社会I	選択必修	2年以上	演習	2	後期		◎	○					Storyville 企画・運営1	企画立案、各種手配、広報、実施、記録にわたり、学科イベント「Storyville」の運営を行う。	現実のイベントの運営を通じ、社会的スキルを身につけると同時に、文芸と社会との関連を具体的なかつ大局的に考えることができるようになる。
文芸と社会II	選択必修	2年以上	演習	2	後期		◎	○					文芸版リアルワークプロジェクト1	学外の企業等と連携し、そのニーズに対して、文芸的なソリューションを提供する。	文芸表現学科で学んだ文芸的なスキルを、現実のニーズに対するソリューションに応用することができる。
文芸と社会III	選択必修	2年以上	演習	2	後期		◎	○					301文庫1	学科が301文庫(仮称)について、刊行作品の選定、企画、編集・広報に到るまでの運営を実践する。	出版(パブリケーション)という行為の実践をとおして、その社会的意義を理解し、文芸と社会をつなぐことの意味を考える。
文芸と社会IV	選択必修	3年以上	演習	2	前期			◎	○				Storyville 企画・運営2	企画立案、各種手配、広報、実施、記録にわたり、学科イベント「Storyville」の運営を行う。	現実のイベントの運営を通じ、社会的スキルを身につけると同時に、文芸と社会との関連を具体的なかつ大局的に考えることができるようになる。
文芸と社会V	選択必修	3年以上	演習	2	前期			◎	○				文芸版リアルワークプロジェクト1	学外の企業等と連携し、そのニーズに対して、文芸的なソリューションを提供する。	文芸表現学科で学んだ文芸的なスキルを、現実のニーズに対するソリューションに応用することができる。
文芸と社会VI	選択必修	3年以上	演習	2	前期			◎	○				301文庫2	学科が301文庫(仮称)について、刊行作品の選定、企画、編集・広報に到るまでの運営を実践する。	出版(パブリケーション)という行為の実践をとおして、その社会的意義を理解し、文芸と社会をつなぐことの意味を考える。
文芸総合演習I	必修	2年	演習	2	後期					◎	○		2年ゼミ	自身のテーマにふさわしいゼミに所属し、学生作品展に向けてそのテーマを追究するとともに、各ゼミごとの活動にも参加する。	各自が自分のテーマを見つけ、それを探求していくことの意義を理解する。また自身のテーマにみあった表現形式を構想することができるようになる。

